

研究代表者 所属・職：社会福祉学部・教授
氏 名：木戸 利秋

研究会名：ソーシャルワーク実習教育研究会

研究課題名：効果的なソーシャルワーク実習指導の開発にむけた大学教員と施設実習指導者の課題と役割、および連携のあり方に関する研究

研究会発足当初の背景

ソーシャルワーク実習教育の質を高めることによって専門職を目指す学生の自己評価を高め、福祉業界をはじめとする社会のニーズにより積極的に応えていくことを問題意識にもち、研究会を発足させた。丁度、実習を主に展開する愛知県下の社会福祉法人と日本福祉大学との間で、フォーラム愛知をスタートさせ、実習教育への社会福祉法人、大学、学生の組織的な関わりができる見込みがあったことも背景にあった。

研究会の目的

現場実習を通して効果的なソーシャルワーク実習指導を開発していくことを目的としている。そのために、3つの研究課題を設定して実習指導者、学生、教員の視点から取り組んでいる。①施設実習におけるケアワークを取り入れたソーシャルワーク実習デザインの方法、②ソーシャルワーカーを育てる実習評価の視点と方法、③効果的な実習スーパービジョンのシステムと方法である。

研究会の活動実績

2017 年度は 6 回の研究会（4/19、5/17、6/28、9/13、1/17、3/1）を行った。主に 2017 年度にソーシャルワーク実習を行った学生に対してのアンケート調査の枠組み、質問項目の検討作業、および 8 月に実施した実習教育研修会の準備を前半では行い、後半は分科会の議論のテーブル起こしや学生のアンケート調査結果をもとに、研究報告書の構想を議論した。

研究成果

学生アンケートからは、学生の実習満足度が高く、それは実習スーパービジョンに対する満足度

の高さと一定の関係があることが明らかとなった。他方、現場実習を通して福祉職場のイメージが変わったのかどうかについて、4 割の学生は「イメージがよくなった」としたが、半数近い実習生は「かわらない」と回答した。こうした学生の変化を念頭に、下記の研究論文において、研修会の分科会での議論で明らかになったことと学生アンケート調査結果をふまえ、さらに考察した。

浅原千里、伊藤正明、江原隆宜、久保隆志、高梨未紀「実習プログラム・実習評価と実習スーパービジョン～ソーシャルワーク実習に対する学生の受け止めから～」『日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター2017 年度年報』第 15 号、2018 年 5 月掲載予定

ソーシャルワーク実習教育研究会『2017 年度ソーシャルワーク実習学生アンケート報告書』2018 年 3 月

今後の展望

2015 年度は施設の实習指導者を対象として、2017 年度は 4 週間実習を終えた学生を対象としてアンケート調査を実施してきた。とくに学生アンケート調査によって現場実習を含む実習指導Ⅱの授業実践の課題の一端が明らかになりつつある。そこで今後は、授業担当教員のこの間の調査結果への反応も見ながら、3 年間にわたる研究にもとづく最終的な報告書を取りまとめていきたい。